

BOOKS

岩永俊博(著)

地域づくり型保健活動の考え方と進め方

《評者》松田正己

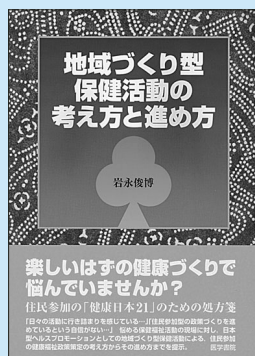
静岡県立大学大学院看護学研究科教授 保健・医療システム学

ちょっとドキドキする住民とのつき合い方の手引き

「楽しいはずの健康づくりで悩んでいませんか」というのが、本書の帯のコピーである。楽しいはずの保健師の活動で、地域の活動で、悩んでいる方は確かに多いのではないかなと思う。パーン・アウトなど、うつ傾向の看護職のなかで、保健師は比較的にネアカの人が多いのがこれまでの印象だった。それが、どうも最近、落ち込んでいる保健師、考え込んでいる保健師が多い。

日常の活動が楽しくないとすると、その要因のひとつは、住民とのつきあいを、保健師が以前のようにうまくできない、自信がない、というところにあるかなと思う。その結果、地域の活動がもうひとつ活気がない。活気がないから楽しくないと、悪循環にはまり込んでいるのだろうか。

このようなモヤモヤとした不安や不満をお持ちの方に、ちょっとドキドキするような地域づくり型保健活動の本が出た。私はこの分野に30年近く携わっているが、このような本が、外国からではなく日本から出版されたことを心から喜びたいと思っている(内容は十分に国際的に通



●A5判 222 ページ

定価：2,940 円(本体 2,800 円)

医学書院 (Tel.03-3817-5657)

用するので、ぜひ外国語に翻訳して海外にも情報発信をしてほしい)。

本書は、国立保健医療科学院の岩永氏が書かれたもので、わが国で伝統的に培ってきた住民参加の方法を、誰にもわかりやすく具体的に体系化し、そして実践の場で住民とどのように向き合うか、その基本的な視点と考え方、そして具体的な進め方までを総合的に解説したものである。研修会などで何度聞いても、新たな発見を得られるのが、岩永氏の実践的な住民とのつき合い方であるが、それらがすべて盛り込まれているので、本書は何度読んでも新たな発見が期待できる。もしかする

と将来、住民参加の保健活動のバイブルとなる本かもしれない。

「ちょっと誉めすぎ」と思う方は、実践の場で住民とのつき合い方に困ったとき、ぜひ本書を紐解いてみてほしい。住民とつきあう必要のない方には、本書のような平易な言葉で書かれている本は、かえってその価値がわかりにくいかもしれない。私自身3～4年前に、多様な障害者グループの計画づくりへの助言を求められた際、相談できる相手がいなくて困っていた。類書を探しても現代の活動にはあまり実践的でない。どうしようかと思っているときに、ふと思い立ち、地域づくり型保健活動に取り組んでみたところ、これほど効果的なヘルスプロモーションと住民参加の方法論が、日本という足元の、しかも私たちの分野にあったことにとっても驚いた。

岩永氏もよく言われるが、論より証拠。とにかく、まず本書を片手に地域づくり型保健活動を自己流でもやってみるとよい。きっと住民と対等の立場で話すときの緊張感が、心地よいドキドキに変わると思う。とにかく、お薦めである。